



新型コロナウイルスの世界的流行により、プロジェクトの日本人スタッフは3月下旬に日本へ一時帰国し、各自在宅勤務を行っています。現地活動再開がいつになるか不透明な状況ですが、活動再開を見据え今できることをしっかりやっていきたいと思えます。今回のフォトレターでは、プロジェクト開始からこれまでの間に日本人スタッフが撮ったミャンマーでの写真から活動以外の様子を写したのも取り混ぜてご紹介します。

ヤンゴン環状線 ヤンゴン市民の足である環状線は昨年から今年にかけて日本の支援により線路が交換され、移動中の車両の揺れと乗車時間が大幅に改善されました。

ヤンゴン環状線の車両 車両は日本で長年活躍し、引退後ミャンマーにやってきました。こちらでも毎日たくさんの乗客を乗せ、充実した第二の人生を送っているようです。

車内販売 1周約2時間の環状線には車内販売の売り子さんが売り物を持って乗ってきます。みかん、イチゴ、ぶどう、携帯アクセサリなど。写真は麺類（モヒンガー？）の売り子さん。



新ミヤウンミヤ橋 日・緬合弁会社が昨年4月にエイヤワディー地域に建設しました。旧橋に替わる橋として2017年着工、今年完成予定でしたが、旧橋が18年4月に崩落（！）。1年前倒して昨年完成し、私達も安心して渡河できるようになりました。

リポ○タンD!? シュエポーのお隣のT/Sの茶店で出された1本。見たことがある鳥のマークと名前。味は日本で売っているものと同じですが、さて効き目の方は。。

働きの者 シュエポーの稲作農家では、日本のコンバインハーベスターが普及しています。収穫の速度が早く、耐久性があるのが評判だとか。適期に短時間で収穫できるのが強みです。



トラジー 地方では、物資の輸送にはトラックのほかにエンジンが車体の前に飛び出した乗り物、通称「トラジー」が広く使われています。小型ながらパワーがあり大量の荷物を運びます。

織機り シュエポーの農村にある近代化した大規模織機工場の隣の建物では、職人が手作業で織物を織り上げていました。完成した布は伝統模様が美しく素晴らしい仕上がりでした。

乾期の農村 今年2月に種子農家調査で訪れた農村を上空から撮影した一枚です。乾期で田んぼも乾いているためちよつと寂しい印象ですが雨期には一面緑の稲穂で彩られます。集落内には数基のバゴタ（仏塔）が立てられていて、そこで暮らす人々を見守っています。



新型コロナウイルスの世界的感染が拡大し収束の兆しが見えませんが、収束したように見えた国でも、行動制限が緩和されるとしばらくして再び感染者が現れます。このウイルスに対するワクチンや治療薬の開発が各国で進んでいるようですが、今は「新たな生活様式」を実践し自己防衛に徹するほか無いようです。このウイルスの発生によって人間社会は多大な影響を受けましたが、そこから学んだ教訓や智恵を活かして、社会をより良い方向へ発展させていきたいものです。FBアカウントをお持ちの皆様は、公式サイトも是非ご訪問ください。URL (<https://www.facebook.com/jica.pure.cs.project/>) (編集委)